

# 介護職員自己評価表

2021年8月18日

事業所名	定期巡回・随時対応型訪問介護看護きいれ (日常的・継続的な医学管理担当チーム)
------	--

	正社員	非常勤社員
介護支援専門員	1人	
認定特定行為業務従事者	8人	
介護福祉士	9人	
実務者・初任者研修	1人	
看護師	4人	4人

※複数資格者含む

## ◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	備考
前回の課題に関する改善	25.5%	33.6%	30.0%	10.9%	

前回の改善計画	ご利用者の多くは全介助状態にあり、医療機関併設の居住系施設におられる。ご利用者とスタッフの負担軽減にノーリフトケア導入に関する、①機器の選定、②軽減される負担の確認、③安全性の確保についてご家族と検討する計画とした。訪問リハビリの理学療法士と連携し機器別の介助手法の検証を予定した。コロナ禍により施設の立ち入りが一部制限されているものの、ご家族との関係性は、来所し行う施設内の面会システム、自宅や職場からスマホやPCを介して行うオンライン面会により維持されている。ご利用者とご家族の関わりを深める取組みとして、日頃の暮らしぶりを収めた写真や動画の活用方法を検討した。一方、コロナ禍の影響はスタッフにもみられ、短時間でスタッフミーティングやスーパービジョンを高頻度で行うことを目指し、プライベートな事情に配慮される業務割りを協議した。
前回の改善計画に対する取組み結果	ノーリフトケアは用いる機器で違いがみられた。医学管理が必要であり拘縮のみられるご利用者では安全性を疑問視する意見がありリスクが払拭できなかった。あわせて、機器を用いた移乗に多くのご家族が違和感を持たれ賛同を得られなかった。これらを踏まえ、継続検討とした。日頃の暮らしぶりを収めた写真や動画の活用は、定期的にご家族に近況報告を添えてお送りした。多くのご家族から感謝の言葉を頂いたものの、自らの訴えができないご利用者も多く、伝えることの難しさを痛感した。スタッフミーティングやスーパービジョンを高頻度で行い、可能な限り都合に配慮される業務割りとした。

## ◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目(偏差値)	よくできている(60以上)	なんとかできている(50~59)	あまりできていない(40~49)	ほとんどできていない(39以下)	合計
SECTION 1 対象者の接し方や態度について	20.0%	40.0%	30.0%	10.0%	100%
SECTION 2 仕事上の態度について	20.0%	40.0%	30.0%	10.0%	100%
SECTION 3 食事について	20.0%	40.0%	30.0%	10.0%	100%
SECTION 4 移乗や移動について	20.0%	40.0%	30.0%	10.0%	100%
SECTION 5 排泄について	40.0%	10.0%	50.0%	0.0%	100%
SECTION 6 入浴について	40.0%	20.0%	30.0%	10.0%	100%
SECTION 7 着替えや整容について	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%	100%
SECTION 8 服薬について	30.0%	30.0%	40.0%	0.0%	100%
SECTION 9 意思疎通について	30.0%	20.0%	40.0%	10.0%	100%
SECTION 10 行動障害について	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%	100%
SECTION 11 普通の生活やアクティビティについて	20.0%	50.0%	10.0%	20.0%	100%

自己評価及び改善が必要な事項	医学管理を行っているご利用者の速やかな医療連携を目的として、バイタルサインを活かしたAIアラートシステムを導入した。ご利用者のバイタルデータが連携医療機関と共有できることで医師や看護師等への連携が早まり、体調変化の管理・把握が容易になり水分の摂取量管理と褥瘡対策等が強化された。共通支援に向けた対策チームを立ち上げ検討し、写真等を用いた業務連携マニュアルを作成し支援の統一を図った。当初は担当チームによる取組みに限られたが、事例検討を行う勉強会で周知していることで、スタッフの意識付けに繋がり観察力が向上している。ターミナル期を迎えているご利用者もおられ、医師の指示に素早く応えられるように、多職種が参加するカンファレンスを定期的に行った。スタッフ教育は、看護師等を交えた実践的な勉強会によりバイタルサインがより活かせる支援を目指した。ご利用者の暮らしぶりや日頃の姿を伝える取組みを評価する声は多く、コロナ禍の終息を願うご家族の想いに寄り添える更なる取組みが問われている。
	主任 畠田美香

外部評価者	定期巡回・随時対応型訪問介護は、定期的な巡回支援と随時支援により介護・看護を提供する24時間対応の介護サービスです。こちらは日常的・継続的な医学管理が必要な重度の要介護者が多く、健康管理と医療連携の重要性は高いです。昨年導入されたシステムにより、利用者のバイタルデータを連携医療機関と常時共有する連携体制は評価できます。バイタルサインから医療連携の必要度が示されるようですので、医師や看護師等への早期連携が期待できそうです。ノーリフトケアの検討は、リスク面に加えて人による介護への強い要望から利用者同意が得られ難い傾向があるようですが、全介助の利用者が多いだけに、職員の腰痛予防を代替する仕組みを検討する必要があります。コロナ禍の日常のなか、家族との関わりや状況報告に難しさを感じる職員がみられる反面、日頃の生活を収めた写真や動画への家族評価は高くニーズの高さが伺えます。未だに終息の目途が立たないコロナ禍の支援として、家族と相談してニーズに応える仕組みを検討すべきでしょう。コロナ禍の影響は職員にもみられ、二次評価より自己評価が低い職員が一定数確認できました。ミーティングやスーパービジョンを高頻度で行い、個別事情に配慮される業務シフトに変更していましたが、職員負担に寄り添える仕組みを職員と一緒に検討する必要があります。総合的な評価は、医療と介護が連携し支援を行っている様子が推察されました。これからも地域に根ざした事業所として頑張ってください。
	〒891-0141 鹿児島市谷山中央5丁目37-11-362 特定非営利活動法人かごしま福祉開発研究所 社会福祉学博士 田中安平

